

西日本高速道路四国支社の防災に関する最近の取組み

2016年5月23日

ネクスコ西日本四国支社
保全サービス事業部



大規模地震時などの道路点検の早期完了に向けて

◆ 大規模地震発生後の道路点検の早期完了に向けて、路面段差を乗り越えるためのアルミブリッジと車両位置情報システムをあらたに導入します

〔アルミブリッジ〕

土嚢



時間短縮効果

土嚢:120分



アルミブリッジ:20分

アルミブリッジ

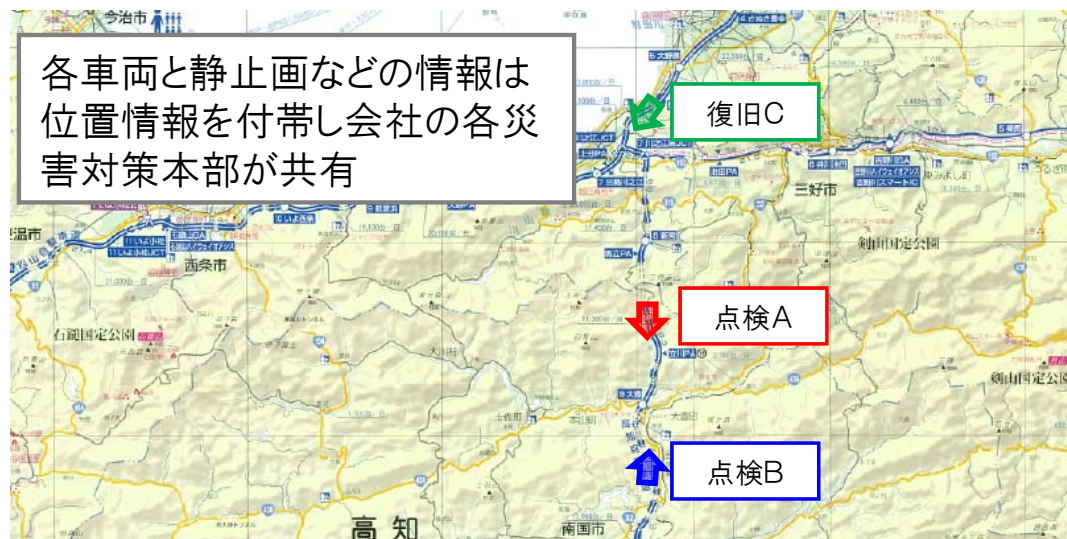


段差高60cm

角度調整可

西日本

〔車両位置情報システム〕



各車両と静止画などの情報は位置情報を付帯し会社の各災害対策本部が共有

復旧C

点検A

点検B



道路点検

資機材の手配
人材の手配
規制対応依頼
etc...



雪水作業

除雪作業
予備散布作業
道路巡回
etc...



現場

HTTPS(VPN)



事務所



支社

■ 早期の緊急復旧のためのあらたな路面段差修正工法の採用

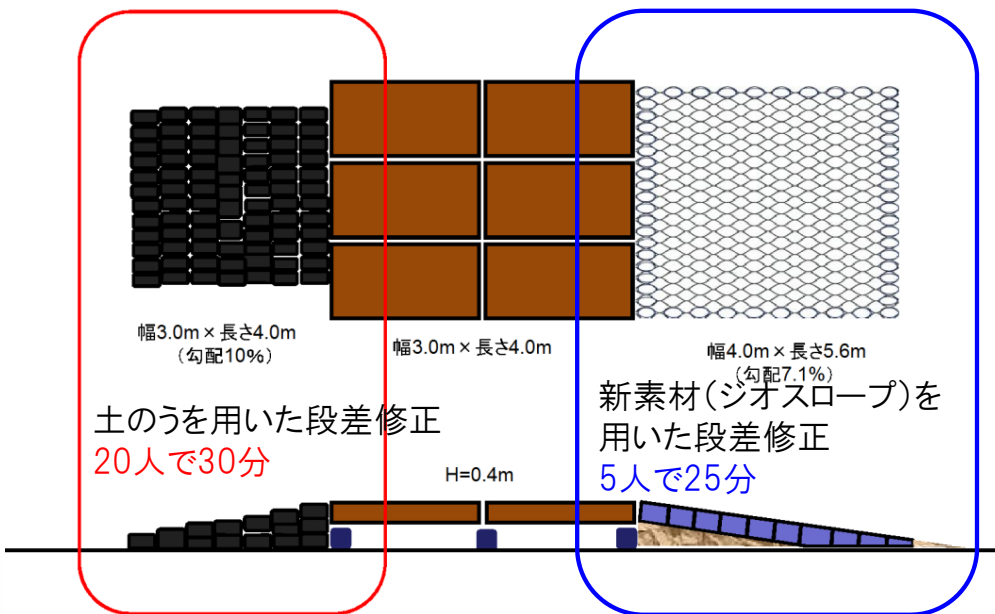
◆ 従来からの土のうによる路面段差修正工法に加え、あらたに少ない労力で短時間に段差修正が可能な『ジオスロープ』工法を導入します

(段差修正の比較事例)

- ・段差: 約40cm
- ・幅員: 土のう 3m 、 ジオスロープ 4m
- ・延長: 土のう 4m 、 ジオスロープ 5.6m

〔土のう〕
(10人・時間)

〔ジオスロープ〕
(2.1人・時間) 約1/4



【土のう積】(製作・運搬除く)
20人×30分=10人・時間

【ジオスロープ工法】(運搬除く)
5人×25分=2.1人・時間 (土のうの約1/4)
(参考:材料費 約150千円/個)

■ 避難車両の高速道路への緊急避難対応について

- ◆ 地震による津波発生時の津波の影響を受ける地域の近傍のインターチェンジの対応
 - ・流入：緊急避難のための車両については、インターチェンジへの流入を妨げない
 - ・流出：津波災害を考えて流出しないよう対応

対象IC：高知IC、須崎東IC、徳島IC、※鳴門IC、松茂SIC ※JB本四高速と調整中



■ レーン対応

- 入口：閉鎖、赤ランプ、遮断機降ろさない
- 出口：閉鎖、赤ランプ、ラバコン設置、遮断機降ろさない

■ 情報提供

- 入口：『地震通行止』看板設置
- 出口：『大津波警報発令中』看板設置

○ 基本的な考え方

- ・津波発生時の避難は、あくまでも地域防災計画によりその避難場所が定められているところですが、これらの場所への避難が困難な場合で、近傍に高速道路のインターチェンジがある場合には、閉鎖中であっても高速道路への避難のための流入を妨げないようにするものです
- ・なお、高速道路の通行止めが実施されている場合、高速道路は地震などにより損傷の可能性もあり、避難に際しては係員の指示などに従っていただくこととなります
- ・また、インターチェンジからの流出にあつては、津波災害を防止するために流出しないよう物理的な対応も行います

道路管理情報の相互交換に関する確認書の締結



- ◆ 四国地整、ネクスコ西日本四国支社間において『道路管理情報の相互交換に係る情報の対象に関する確認書』を締結。今後は相互利用のために必要なハードを整備し情報の交換を行います

H17.5.10 基本協定
H17.9.26 細目協定
H28.3.25 確認書

(イメージ)

四国地整災対本部



ヘリテレ映像



国道ライブカメラ

情報共有



ネクスコ四国支社災対本部



CCTV降雪状況



CCTV事故状況

（参考）高知道冬用タイヤ規制を初めて実施



◆ 高知道で初めて冬用タイヤ(チェーン装着車除く)規制を実施

冬用タイヤ(チェーン装着車除く)⇒スタッドレス、スノータイヤ

- ・期間 H28.1.24 20:30～1.25 2:20 約6時間
- ・区間 高知道 川之江東JCT～大豊IC間(上下線)
- ・台数 702台の車両のうち通行可能な車両は600台
(約100台はノーマルタイヤなどにより通行不可)



法皇Tn北タイヤチェック場

